



## 当たり前だけど、とても大切なこと

ゴソゴソゴソ。

一人の男の子が、物をしまおうとして悪戦苦闘しています。

限られたスペースに、たくさんの学習道具。

効率的に収納するのは、中々難しいものです。

そんな時、ある子がさっと手を差し伸べて、片付けを手伝い始めました。

それは、ごくごく当たり前の様にして行われました。

朝起きて、顔を洗う位。ご飯を食べる時に、「いただきます」と言う位。

ごく自然に手助けをする姿に、目を奪われました。

算数のテストで 100 回連続 100 点を取ったとしても、きっとそこまで心を動かされることはないでしょう。

それほど、その子の行いは尊く素晴らしいのだと感じました。

「人には優しくしなさい。」

誰しもが言われたことのある、当たり前のこと。

ずっとずっと昔から、日本人が言い続けてきたこと。

けれど、それを実行できるかどうかは、些細ですが非常に難しく大切なことだと思っています。

現在の福島県の辺りに「会津藩」というところがありました。

ここでは、6 歳から 9 歳までの子どもたちが「什」というグループを作り、勉強や遊びを共にしました。

グループの中で大切にしていた決まりが、「什の掟」です。

このルールは、グループの中で毎日繰り返し唱和され、ルールが守られているかどうかの確認がなされました。

もちろん、出来ていなければ罰則があります。

現在で言えば小学校の低～中学年にあたる子どもたちが、こうした決まりを大切に日々勉強を行っていたのでした。

具体的には、以下のような内容です。

- 一、年長者の言うことに背いてはなりません
- 三、虚言をいふ事はなりません
- 五、弱い者をいぢめてはなりません

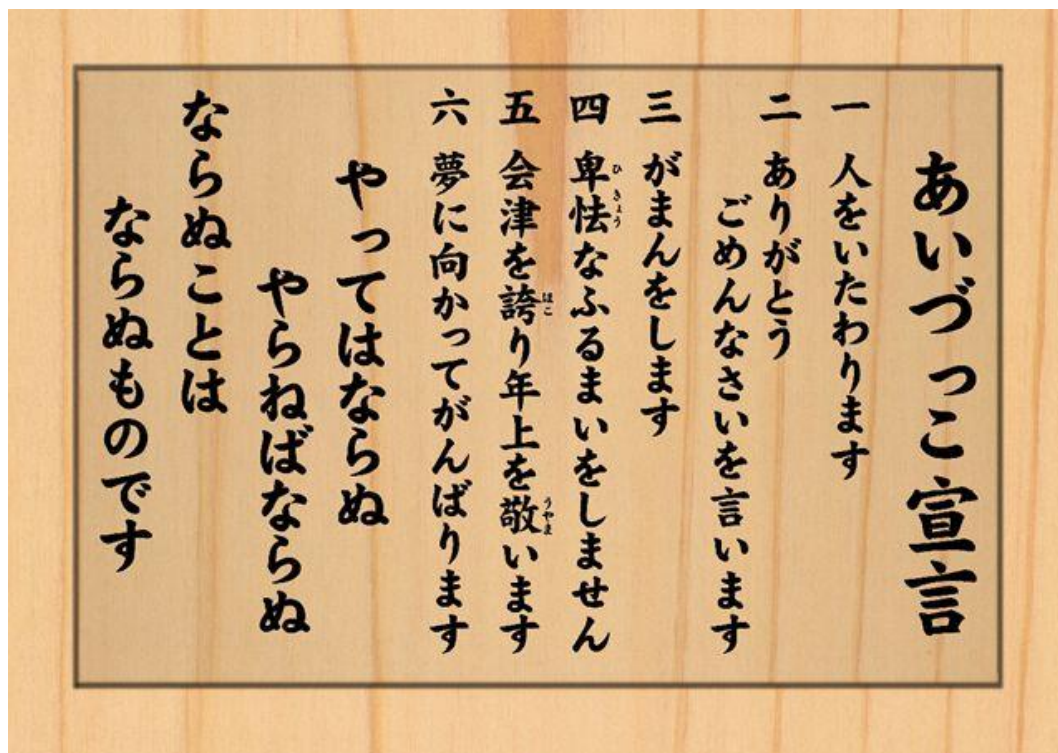
これらの決まりの終わりに、きっぱりと次のように書かれました。

### 「ならぬことは、ならぬものです」

厳しくも、しかし人の道を進む上で非常に大切な価値がある教訓として、この「仕の掟」が現代においてにわかに注目を集めています。

2013年には、大河ドラマの中でも紹介され、全国的にクローズアップされたことをご記憶の方もいるでしょう。

実際に、現在でも福島県会津若松市では、仕の掟をベースとした「会津っ子宣言」が市をあげて推奨され、教えられています。



とても価値ある文章です。

以前にも通信でお伝えしてきましたが、「自制心」を身につけた子供たち

が勉強や運動において目覚ましい成果をあげているとの研究成果があります。別に、こうした研究成果があるから心の勉強にも力を入れていきましょう、と声高に叫ぶものではありません。

100年以上も前から、何の研究もなされていない時代から、こうした教育内容の価値を我々の先人は伝えてきてくれていたのです。

こうした例は、実は日本だけにとどまりません。

全米で最優秀教師として表彰されたロン・クラークという先生がいます。

このクラーク先生は、生活環境が厳しい子どもたちが多く集まる学校で、「あたりまえだけど、大切にしなければいけないこと」を一つ一つ丁寧に教え、その中で目覚ましい教育効果を上げたとして表彰されました。

その実践は本として出版され、「あたりまえだけど、とても大切なこと」というタイトルで、日本でも出版されています。

販売されてすぐ、一気に読みました。

あまりに素晴らしい本だったので、さらに数冊購入し、知人にプレゼントしたほどです。

この本の中には、日常の生活の中で大切にしなければいけないことが50厳選されて書かれています。

とはいっても、それはどれも「当たり前」のように我々が教えられ、そして教えていることでもありました。

しかし、こうした内容をどこまで徹底できるか、そしてその徹底したことによって、どんなに素晴らしいことが子どもたちに起きるかということを実体的に描写している点がこの本の秀逸なところです。(とってもお勧めの本なので、もし興味がおありでしたらお貸しいたします。手元に3冊ほどストックがありますのでお気軽にお申し出ください。)

先日。

学活の時間に、ちょうどこの本の内容を子どもたちに紹介しました。

最初に聞いたのは、次のことです。

50のうち、最初に書かれているルールは何だと思えますか。

一番初めのルールは、一番大切なルールでもあります。

全米で最も優秀とされた先生が考える、一番大切なルールとは何か。

子どもたちは、周りの友達と相談しながら、口々に発表しました。

「あいさつをすることです。」  
「友だちにやさしくすることです。」  
「物を大切にすることです。」

あらかた意見が出尽くしたところで、答えを紹介しました。  
これです。

ルール1 大人の質問には礼儀正しく答えよう

**大人の質問に答えるときには、「はい、そうです」とか、「いいえ、違います」というように、いつもきちんとした言葉づかいで答えよう。ただうなずくだけではダメだし、乱暴な答え方もいけない。**

本を読めば想像に難くありませんが、クラーク先生は、この点が現代の子どもたちにおいて最も大きな課題であると考えているようです。

話を聞いている子どもたちは、そうか〜と神妙にうなずいていました。

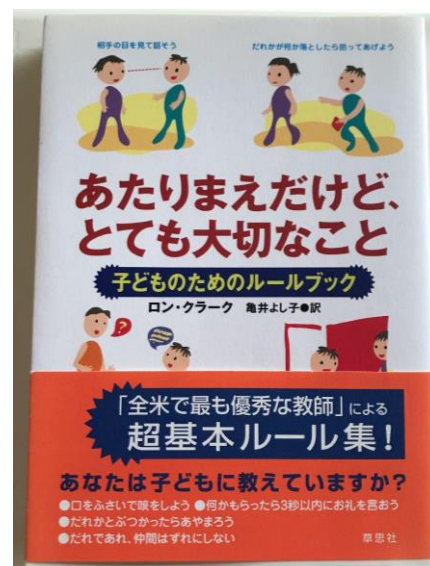
さて、1年生でも、第1クォーターの一番初めから、こうした基本的な生活のルールについて繰り返し教えてきています。

そこで、クラーク先生の考えた50のルールから厳選して微修正を加える形で、SOLAN版の「当たり前だけど、とても大切なこと」を作りました。

1年生向けに、数は減らして30としましたが、いずれも今まで毎日言い続けてきた内容ばかりです。

せっかくですので、紹介します。

最初の学活の時間では、どれが出来ていてどれが出来ていないか各自でセルフチェックすることにしました。



ルール1	おとなのしつもんには「れいぎただしく」こたえよう
ルール2	ぼうりよくはけっして「ふるわない」
ルール3	きがえるときは「すばやくしずかに」きがえよう
ルール4	だれかがすばらしいことをしたら「はくしゅ」をしよう
ルール5	かっても「じまんしない」、まけても「おこったりしない」



ルール6	なにかをもらったら「3びょういないにおれい」をいおう
ルール7	ひとがみていないところで「いいこと」をしよう
ルール8	きょうかしよをよむときは、「りょうてでもつ」こと
ルール9	「いま、なにをするときなのか」をかんがえてこうどうしよう
ルール10	できるかぎり「つぎのじかんのじゅんぴ」をしよう
ルール11	じゅぎょうちゅうは「きよかなくせきをたたない」
ルール12	せんせいやともだちの「なまえをよんであいさつ」をしよう
ルール13	えんぴつは「まいにちけずる」こと
ルール14	わすれものがないか、「じぶんでかくにん」しよう
ルール15	ロッカーやつくえのまわりは「いつもきれいに」しておこう
ルール16	アイパッドは「じかん」と「つかいかた」をまもってつかおう
ルール17	「しかられているひと」のほうをみない
ルール18	「とうばんのしごと」をわすれずにすること
ルール19	トイレをきれいにつかって「スリッパをそろえよう」
ルール20	どのせんせいのじゅぎょうでも「ルールをまもろう」
ルール21	バスのなかでは「おとなしくすわって」いよう
ルール22	「じかんをまもって」こうどうしよう
ルール23	だれかがなにかおとしたら、「ひろってあげよう」
ルール24	だれかとぶつかったら「わざとでなくてもあやまろう」
ルール25	「みんなであつまったとき」はおしゃべりをしない
ルール26	「みんなでろうかをあるくとき」もおしゃべりをしない
ルール27	「よこはいり」をしない
ルール28	かんしゃをこめて「いただきます」「ごちそうさま」をいおう
ルール29	じぶんやひとのまちがいをうけいれよう
ルール30	きみのなれるもっとかしこく・かっこいいにんげんになれ

先述の「人に優しく」と同じで、いずれも当たり前で大切だけど、それを徹底するのは非常に難しいことだと言えます。

いつか全員が全ての内容が出来る事を目指して、これからも点ではなく線の指導を続けていきたいと思います。(渡辺道治)